

# 水明会

No.143  
だより  
水明会ホームページはこちら



## 水明園・みよしの

編集／社会福祉法人水明会[令和3年10月1日発行]  
〒728-0017 広島県三次市南畑敷町441 TEL(0824)62-2841

### 水明会

#### 「敬老の日」

水明会では、九月二十日に敬老行事を行いました。百歳以上の方が十一名、米寿の方が三名でした。今年も感染症対策を実施しながらの行事となりましたが、水明会一同、入所者皆様のご長寿を心よりお祝いしました。

こっちこっち～  
こっち向いて～



### おめでとうございます!



職員はご利用者の  
笑顔が見たいのです



お祝いの  
気持ちを込めて～!



は～い  
笑って～!



#### 養護老人ホーム 水明園

#### 「お楽しみ会」

9月のお楽しみ会で、たこ焼きとメロンソーダーを食べられました。

とろとろたこ焼き!



シュワっと美味しい～!



#### 「秋満喫」

秋といえば、読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋といろいろありますが、水明園でも秋を見つけることができました★

#### デイサービスセンター 水明園

#### 読書の秋



本の世界へ

#### 食欲の秋



栄養士さんの  
手づくりスイーツ♡

#### スポーツの秋



身体を動かします!



#### 「水明園居宅介護支援事業所」から

介護保険サービス等を利用するまでの手続きや調整、要介護認定の申請代行、介護サービス計画の作成等を行います。ご自宅で生活に不安なことや介護が必要になってお困りのことがありましたらまずはお気軽にお問い合わせください。



電話番号 **0824-62-8585**



冷たくて美味しい



「どんちゃん」  
みよしのでは、8月行事で「みよしのどんちゃん夏祭り」を行い、三次市で例年開

催されていたどんちゃん、炭坑節、ドンパン節を職員が踊りました。一緒に踊って下さった手をされる等、とても楽しまれていました。その後は夏ということアイスクリームを皆様に提供させていただき、「おいしい」や「アイヌが食べたかったんよ」と皆様とても喜ばれました。



気合を入れて踊ります!

## 「盆踊り」

入所者、利用者の方にはっぴを着て頂きました。

職員の踊りの動きにあわせて手を動かされる方、手拍子をされる方、笑顔で楽しんでおられました。



はひ!はひ!  
ヨイヨイヨイ!



## プロフェッショナル福祉の流儀

(第1回 看護師の流儀)

水明園には、ご利用者に直接向き合う介護と、側面から支援する仕事など、様々な専門職が働いています。そんな方々に突撃インタビュー!! 第1回は看護職員さんにスポットをあてました。

インタビューに答应いただいたのは、水明園 箕岡看護主任、みよしの 信岡看護主任のお二人です。

### —コロナ禍での看護で気を付けているポイントを教えてください

看護師「入所者も私たちも家族と顔を合わせて話をする機会が減っている中で、健康状態の報告は大切です」

—なるほど。面会の時に併せて状態報告をすることもありますね。今はオンライン面会を活用いただき、その時間に報告もできますね

看護師「感染症予防では、入所者の健康管理も大切ですが、職員がウイルスを持ち込まない、拡げないということも非常に大切です」

### —配置医師、医療機関との連携で意識していることは何ですか

看護師「医師・家族・職員それぞれに伝え方や連携の工夫は違います」

—例えばということですか

看護師「医師との連携では入所者が緊急な状態であるかの確に伝えることです」

「家族には、本人と家族の気持ちになって伝えること。また、入所者の状態を正しく伝えて理解を促すことも意識しています」

「受診や入院が必要な時は、速やかに医療機関と連携してスムーズに進めることも大切です」

### —看取り介護について教えてください

看護師「特養で看取りを希望される方は増えていますが、実際に看取することも多いです」

「食事が口から食べられなくなった時、痰の吸引が必要になった時から看取り介護を意識しています」

「医師が看取り時期に入ったと判断した場合、最期をどこで過ごすのか、延命治療を望むのかなど大きな決断が待っています。本来であれば入所者本人に選択してもらいたいが望ましいですが、多くの場合は家族が決断されています」

—なるほど。入所者本人と事前に確認しておくことが大切ですね

看護師「看取り介護を施設で行う場合は、入所者に対して職員も家族も連携できる大切な時期になります。一日一日が貴重な時間であり、私たちは入所者に感謝と敬意を看護と介護で伝えます」

### —お二人の看護観、大切にされていることはなんですか

看護師「“心”です。相手の気持ちを汲み取ること。入所者の想い、家族の想い、みんな違います。私たちにその想いを代弁する役割があります」  
「日々の生活を安心してもらう看護ですね。専門職として入所者の生活を自然にサポートできる存在でありたいと思います」



家族  
だより

中島 正昭

母、中島ウノエは平成26年(当時94歳)からショートステイ水明園でお世話になり、その後、特別養護老人ホーム水明園に入所しました。昨年9月には国と三次市から100歳の表彰をいただきました。

母は博多市内で生まれて、サラリーマンの家庭でした。旧姓宮本家の末子長女で上には兄2人がいましたが、長男は23歳で病死、次男は25歳でフィリピン沖で戦死しました。父、仁次郎と結婚して中島家と実家の宮本家の両方を父

と協力して来ましたが色々苦労しました。母は几帳面な性格ですが水明園での生活で、わがままを言って職員さんを困らせていないかと私たちは気にしています。

昨年からは、新型コロナウイルス感染症の予防など、水明園さんも大変御苦労されていると思います。入所者の皆さんが感染もなく穏やかに過ごされていることは、理事長さんをはじめ、特に介護職員さんは大変な毎日を通り越され、皆さんにしかわからない努力があり今日があるのだと思います。心より感謝します。

まだまだ大変な状況の中、今まで以上に何事も基本を忠実に守っていただき頑張ってください。お願いします。

## スタワ4コマ



## 編集後記

(花本 佑一)



東京オリンピックが無事に開催されました。日本は過去最多の58個のメダルを獲得しました。その中で悔しい思いをした選手もいます。「神は乗り越えられる試練しか与えない」と言います。それはスポーツでも生活するうえでも言えることです。今の現状に絶望するのではなく、希望を持って明るい世の中になることを願います。